

2022年 5月 子育てワンポイント

テーマ 「大人の過干渉～親子のほどよい距離～」

過干渉とは子どもが望んでいないことをやってあげ過ぎることです。また似た言葉に過保護がありますが過保護は子どもが望むことをやってあげ過ぎることです。つまり、過干渉は子どもが望まないにも関わらず親の想いだけでやりすぎてしまう事です。そうすると子どもは自分を出しにくくなってしまいます。それなら子どもが望まないことをやらせなくてもよいかというところではありません。例えば、子どもが野菜が嫌いだから肉しか食べないという訳ではないように最低限必要な事は教えていく必要があります。



過保護と過干渉

過保護と過干渉が同一の言葉として使われるがそれは親の方に干渉しているという意識がないからと考えられ過保護だと思っていたことが実は過干渉だったということもあります。過保護、過干渉の意味をしっかりと理解することが必要です。子どもの上を常にヘリコプターのように旋回して見張っている親「ヘリコプター・ペアレント」という言葉があります。子どもの行動を監視し先回りして何でも準備してしまうような親達のことを言います。

子どものサインが見られた時には、まずはしっかりと子どもの話に耳を傾けるようにしましょう。また、抱っこを求めてきたり、手を握ったりなど、愛情を求めてきた時には、その場でしっかりと対応してあげましょう。家族に「気持ちを受け止めてもらえた」という安心感は、新しい環境に向かう元気をつかむことにつながっていきます。



親の監視や先回りした行動を望む子どもは自立しているとは言えず自立した子どもを育てるという親の責任とは対極の状況になってしまいます。幼児期は子どもが望むことをできるだけ叶えてあげましょう。子どもが抱っこをしてほしいと願うなら抱っこしてあげるなど家族の誰かに変わりを頼むのではなく親がやってあげることが大切です。ただし躰や自由との違いをしっかりとわきまえて行動しましょう。子どもがやってほしいことが環境状況などの理由でできない場合は子どもに理由を説明し必ず後から叶えてあげましょう。

満足した子どもは自然と離れていきます。学童期は親からの愛情を十分に受けた子どもは自然と離れ自立し親への安心感があると友人や教師など周囲の人とも良い関係が築けていけます。子どもの発達成長段階に応じた保護の仕方があり子どもが今何を望んでいるのか見極めが大切です。

